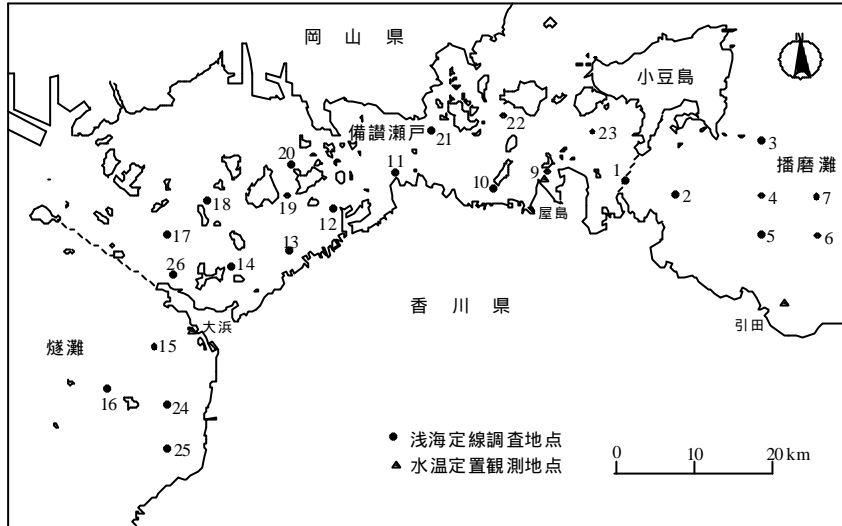


香川県漁海況速報 平成15年7月 (H15- 4号)

香川県水産試験場

1. 海況

1) 観測地点



2) 浅海定線調査

(1) 調査日

平成15年7月2日(播磨灘)、1日(備讃瀬戸、燧灘)

(2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「やや低めから平年並み」、塩分は「やや低めからやや高め」、透明度は「やや低めからやや高め」、溶存酸素は「やや低めからやや高め」であった。

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度	溶存酸素 (ml/l)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層	(m)	表層	底層
播磨灘	7地点平均値	21.8	20.7	18.6	31.9	32.1	32.4	6.9	5.17	4.23
	平年値	22.0	20.6	18.8	31.5	31.8	32.1	8.2	5.26	3.70
	平年偏差	-0.3	0.1	-0.2	0.3	0.3	0.3	-1.3	-0.09	0.53
	状況	平年並み	平年並み	平年並み	やや高め	やや高め	やや高め	やや低め	平年並み	やや高め
備讃瀬戸	14地点平均値	21.2	21.0	20.8	32.0	32.1	32.2	4.8	4.49	4.41
	平年値	21.3	20.8	20.5	31.5	31.8	32.1	4.2	4.78	4.54
	平年偏差	-0.1	0.2	0.3	0.5	0.3	0.1	0.6	-0.29	-0.13
	状況	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	やや高め	やや低め	平年並み
燧灘	4地点平均値	22.9	20.5	18.4	30.5	32.7	32.9	10.3	5.22	4.03
	平年値	23.9	20.1	18.2	31.4	32.4	32.6	10.5	5.37	3.79
	平年偏差	-1.0	0.4	0.2	-0.9	0.3	0.3	-0.2	-0.15	0.24
	状況	やや低め	平年並み	平年並み	やや低め	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み

平年偏差 = 平均値 - 平年値

平年値の算出期間 水温及び塩分：昭和47(1972)～平成13(2001)年度

透明度：昭和58(1983)～平成13(2001)年度

溶存酸素：昭和55(1980)～平成9(1997)年度

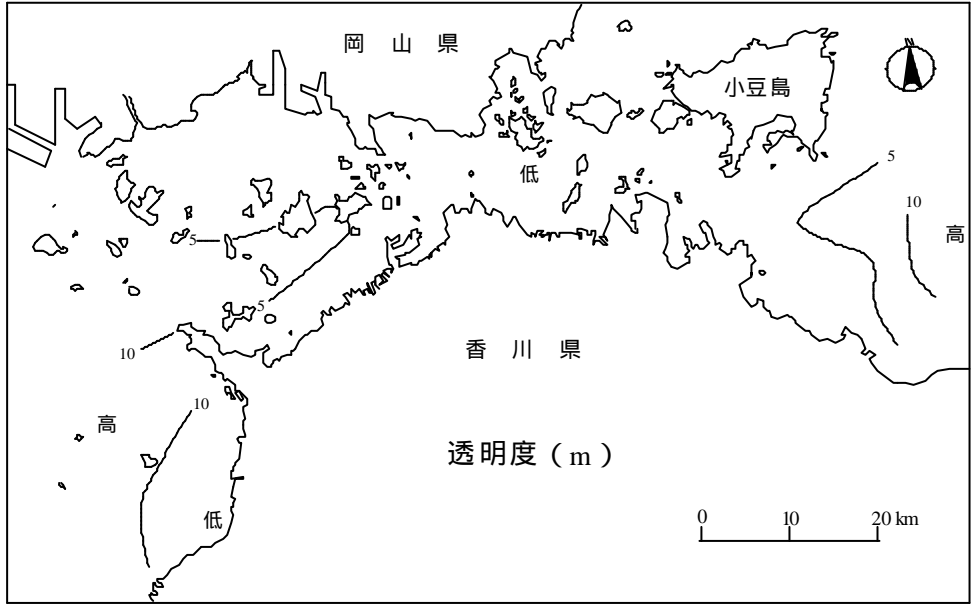
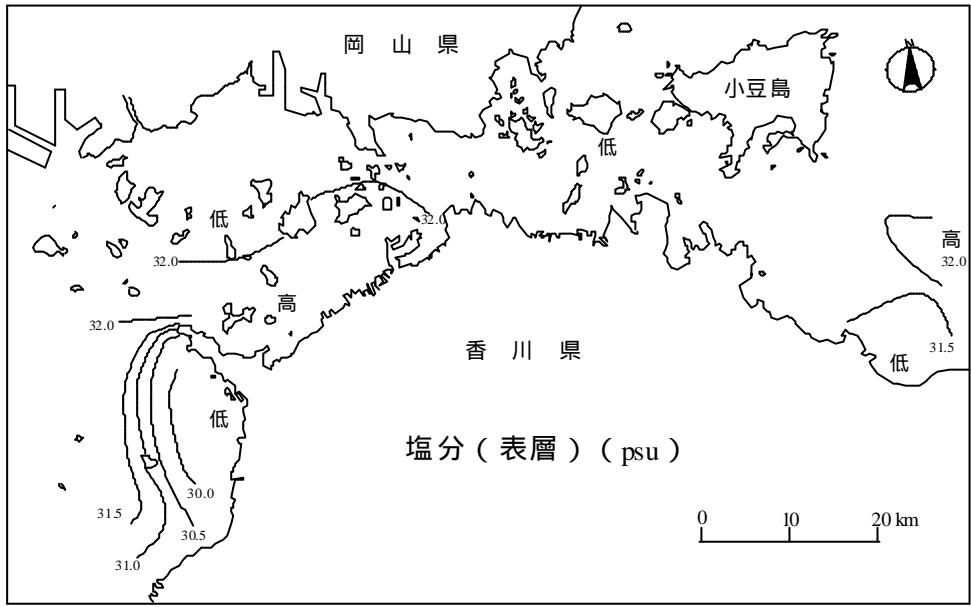
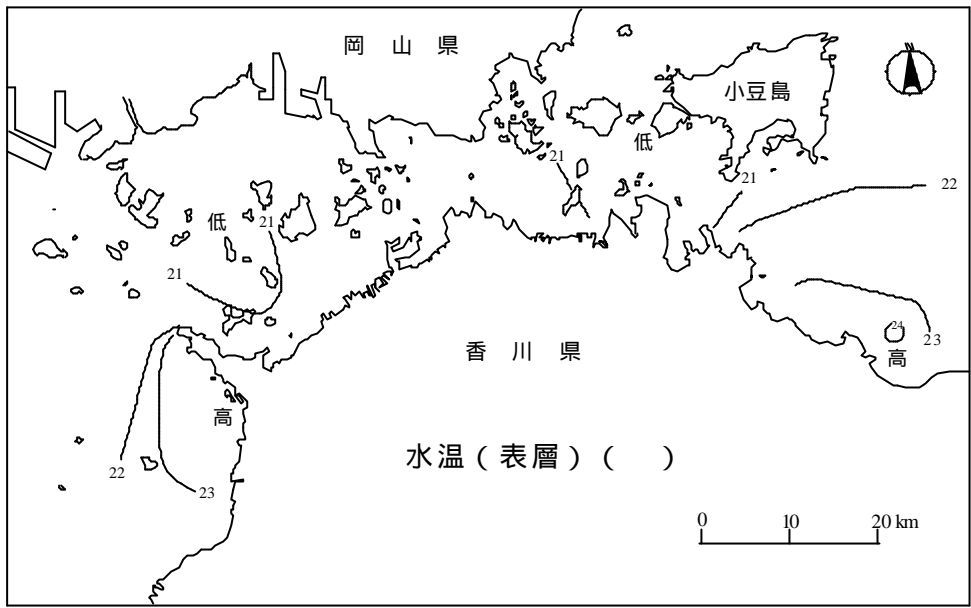
水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み 0 平年偏差 < 0.6 (: 標準偏差)

やや高め(やや低め) 0.6 平年偏差 < 1.3

かなり高め(かなり低め) 1.3 平年偏差 < 2.0

著しく高め(著しく低め) 2.0 平年偏差



2) 定量観測 (水温)

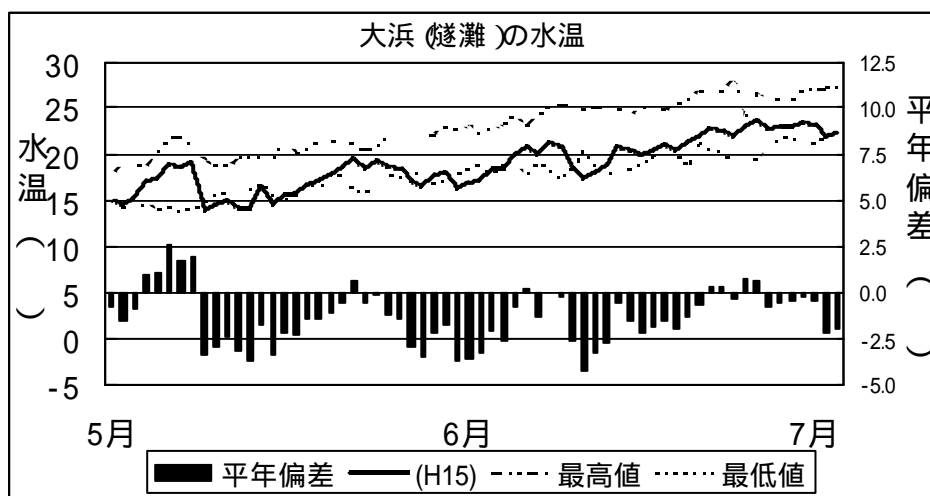
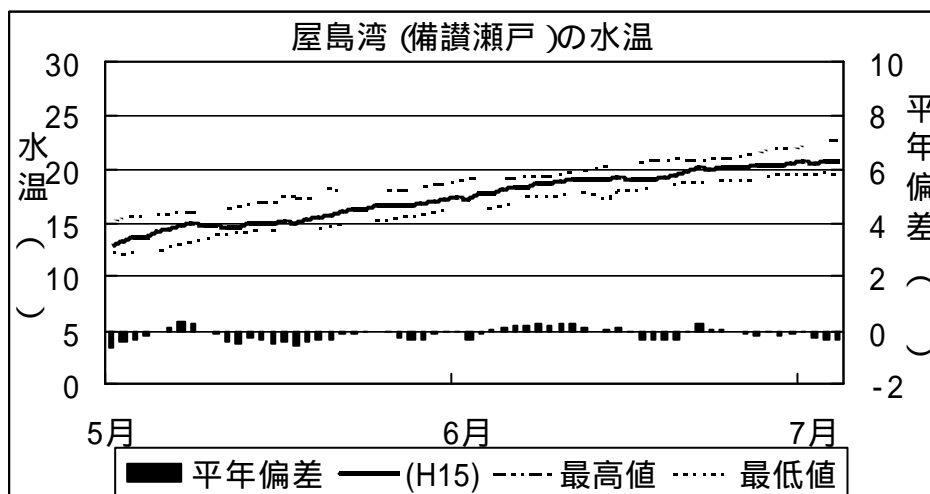
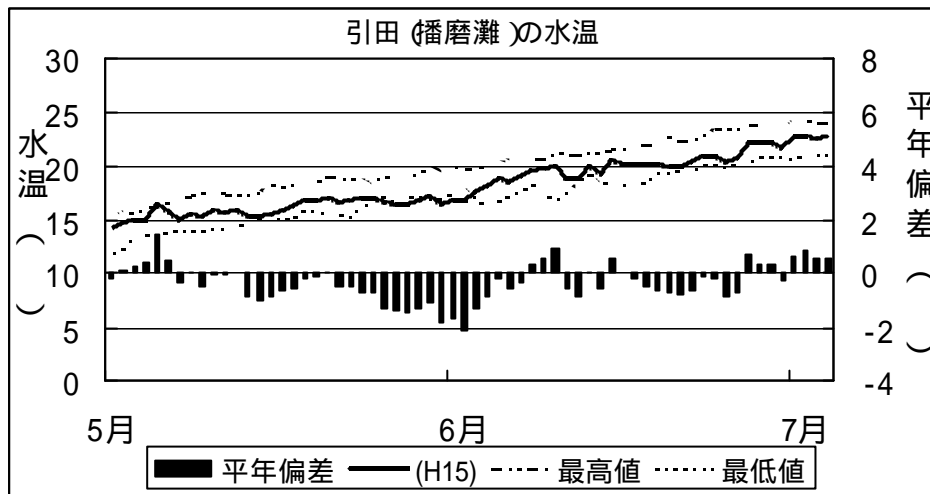
播磨灘 (引田): 5月中旬以降、平年偏差が - 1 ~ - 2 で推移していた。6月に入りやや上昇し、平年偏差が - 1 ~ 1 で推移している。

備讃瀬戸 (屋島): 5月中旬以降平年偏差が - 0.5 ~ 0.3 と平年並みに推移している。

燧灘 (大浜): 5月中旬から6月中旬まで、平年偏差が - 2 前後で推移していた。6月下旬一時プラスに転じていたが、その後 - 0.2 ~ - 2 で推移している。

平年値の算出期間 引田及び大浜: 平成元 (1989) ~ 平成 14 (2002) 年

屋島: 昭和 50 (1975) ~ 平成 14 (2002) 年



3) 赤潮

播磨灘：6月下旬南西部で *Chattonella verruculosa* による赤潮、内海湾で *Prorocentrum dentatum* による赤潮、志度湾で *Heterosigma akashiwo* による赤潮、7月上旬南部（引田沖）で *Cochlodinium polykrikoides* による赤潮が発生している。

備讃瀬戸：6月下旬東部（豊島沖）で *Fibrocapsa japonica* による赤潮、屋島湾で *Heterosigma akashiwo* による赤潮、坂出港内で *Prorocentrum dentatum* による赤潮が発生している。

燧灘：発生なし。

4) 卵稚仔

調査日：平成15年7月2日（播磨灘）、1日（備讃瀬戸、燧灘）

出現量

個（尾）/ 曳網

	カタクチイワシ		マイワシ		サワラ		その他の魚類	
	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	45.50	9.63	0.00	0.00	0.00	0.00	12.50	3.63
備讃瀬戸平均	1.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	6.07	1.80
燧灘平均	38.57	35.14	0.00	0.00	0.00	0.00	6.14	14.86
総平均	21.63	10.80	0.00	0.00	0.00	0.00	7.80	5.33

対平年値

	カタクチイワシ		マイワシ	
	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	101.0%	152.4%	-	-
備讃瀬戸平均	30.2%	9.7%	-	-
燧灘平均	298.7%	3178.7%	-	-
総平均	129.7%	472.2%	-	-

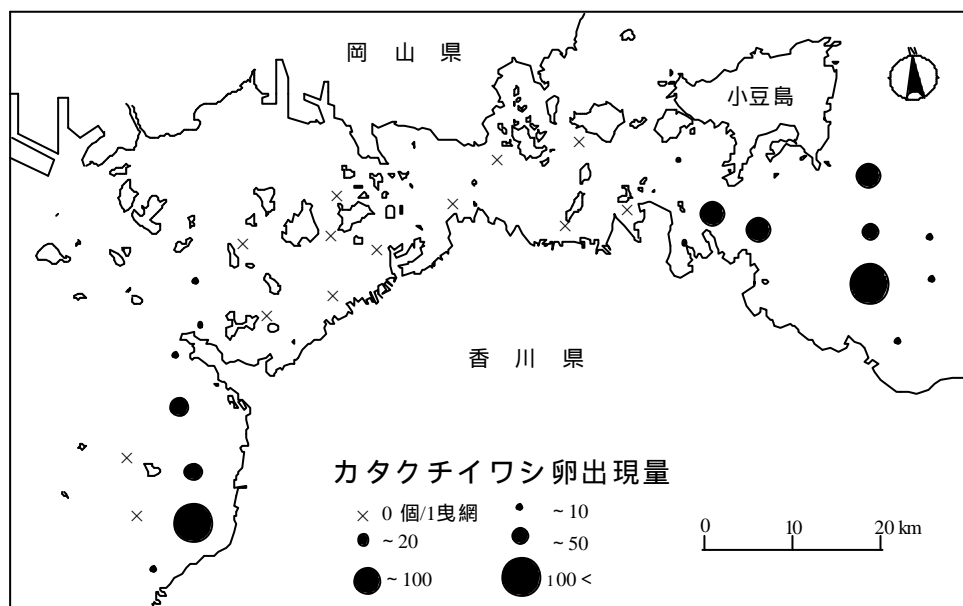
- : 平年値が0の場合を示す。

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55（1980）～平成14（2002）年度

マイワシ：平成5（1993）～平成14（2002）年度

各調査点のカタクチイワシ卵の出現量は、次のとおりである。



2. 漁況

6月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	<p>板曳き網では主にテナガダコを漁獲しているが、低調である。 大型定置網ではサワラやマルアジやスルメイカが減り、低調な漁獲になっている。 舩網では豆アジが漁獲されはじめているが、全般的に低調である。 シラス船曳網の6月の漁獲量は不漁であった前年を上回ったが、7月になって急激に漁獲が減ってきている。</p>
備 讃 瀬 戸	<p>底びき網では主にウシノシタ類、メイタガレイ、マアナゴ、テナガダコが漁獲されている。 高松・庵治沖のイカナゴ込網の今年の漁獲量は前年を大きく上回る約3,600トンで、特に、5月の漁獲が多かった。 マナガツオ流し刺網は前年同様低調な漁獲である。</p>
燧 灘	<p>底びき網では主にメイタガレイ、マアナゴ、マダコ、コウイカ類、コチ類が漁獲されている。 イワシ機船船曳網の6月の大羽の漁獲量は前年の約1.3倍と好調なスタートとなった。</p>